

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAa001		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学の入門講座 (心理専門科目の基礎) として、人間の行動と「心」の関係を科学的に理解する態度と視座を身につける。

科目の概要

物理学が「物」の理を探究するのに対して、心理学は「心」の理を探究する学問です。

では、その「心」とは何を指し、どのようにして理を探究するのでしょうか？

前半は「脳と心」をテーマに、心理学的な現象を観察したり、簡易的な実験に参加してもらいながら、人間の反応や行動の特徴、および、その現象が起きるメカニズムについて体験的に学びます。

後半は「心と適応」をテーマに、心理テストや自己分析を通して、人間の社会適応・不適応のメカニズムを学ぶと同時に、コミュニケーションのあり方など「心理学と日常生活の関わり」を実践的に学びます。

学修目標 (= 到達目標)

人間科学としての「実証的な心理学」に対する理解を深めること、また、興味・関心をもった心理学的現象を受講者自ら (卒業研究などで) 探究・追究する力を養うこと、を目指します。

内容

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

- 1 心理学とは
- 2 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 3 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 4 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 5 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 6 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 7 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 8 発達と認知 - 発達とは
- 9 発達と認知 - 育み合う心
- 10 情報と思考 - 推論とは
- 11 情報と思考 - 原因を考える
- 12 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 13 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 14 社会的行動 - 適応と不適応

評価

中間テスト（2回、計50点）、期末試験（1回、計50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 参考図書・推薦図書と併せて、授業のなかで適宜図書を紹介する。

科目名	発達心理学概論		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAa002		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修専門科目である。生涯発達領域における入門科目であり、「乳幼児期の心理学」「児童期の心理学」「青年期の心理学」等、各発達段階に関する科目の基礎となる。

科目の概要

発達心理学とは、人間の生涯にわたる発達の過程と要因を探るものである。本講義では、人の発達をどのように捉えるのかに関して発達心理学における基礎的な理論や方法論を取り上げる。また、一生を通じて起こる発達の過程を胎児期から高齢期まで発達段階ごとに概観し、各段階において課題となる発達の諸側面について学ぶ。

学修目標

発達心理学における理論や方法論を知り、人を発達という視点から捉え考察できるようになることを目標とする。また、生涯にわたる人の発達の過程を知り、自らの経験や周囲の人々の様子と関連づけることで、変化し続ける存在としての人に対する考察を深めることを目指す。

内容

毎回講義内容に関する作文を課す。講義を聞いて理解したことや疑問点をまとめ、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。作文の内容に関しては毎回フィードバックをする予定である。

1	イントロダクション 発達とは
2	発達心理学のなりたち
3	発達のしくみ：遺伝と環境
4	発達をとらえる枠組み：発達理論
5	胎児期の発達
6	乳児期の発達 : 赤ちゃんがとらえる世界
7	乳児期の発達 : 最初期のコミュニケーション・アタッチメント
8	幼児期の発達 : 言語と遊びの発達
9	幼児期の発達 : 自己と対人関係の発達
10	児童期の発達 : 学校での学び
11	児童期の発達 : 集団における自己
12	青年期の発達 : アイデンティティ
13	成人期の発達 : 職業選択・養育性の発達
14	高齢期の発達 : 統合にむけて
15	まとめ

評価

毎回課す講義内容に関する作文（40%）、期末試験（60%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

作文に関しては授業内でフィードバックを行う。期末試験へのフィードバックは成績提出として行う。

授業外学習

【事前予習】毎回次回講義の予告をするので内容に関して自分なりに考えたりキーワードを調べたりしておく

【事後学習】学習内容についてノートを整理し復習する。また自分の書いた作文を見直し疑問点について考察を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：使用しない

推薦書：授業内で適宜紹介する

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科2年次の必修専門科目である。生涯発達領域における「発達心理学概論」を基礎とし、「児童期の心理学」「青年期の心理学」と関連する。

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。また、生物学的な基盤をもったヒトが、世界に出会い人として歩み始める劇的な時期が乳幼児期であるともいえる。本講義では、身体・認知・情緒などの諸側面から乳幼児期の発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深めることを通じて、生涯発達の中での乳幼児期の位置づけについても考察する。

学修目標

乳幼児期の発達の過程について知り、乳幼児に対する理解を深めることで、臨床や実践活動においてだけでなく日常生活の上でも子どもと関わる際の基礎知識を身につけることを目標とする。また、社会や文化において乳幼児がどのような存在であり、人の一生の中で乳幼児期がどのような時期なのかについて考察を深めることを目指す。

内容

1	乳幼児期とは
2	乳幼児研究の方法
3	赤ちゃんの不思議
4	身体・運動の発達
5	認知発達
6	認知発達
7	親子関係の発達
8	親子関係の発達
9	個性の発生
10	自己への気づき
11	情緒の発達
12	言語とコミュニケーションの発達
13	遊びの発達と集団生活
14	年齢別の発達の様相・測定
15	まとめ

評価

講義内での課題や小テスト (40%)、期末試験 (60%) とし、総合得点60点以上で合格とする。

講義内での課題や小テストはコメント記載や採点を行い授業内で返却する。期末試験へのフィードバックは成績提出として行う。

授業外学習

【事前予習】毎回次回講義の予告をするので内容に関して自分なりに考えたりキーワードを調べたりしておく。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。また、疑問点について調べたり考察を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 使用しない

[推薦書] 授業内で適宜紹介する

科目名	児童期の心理学		
担当教員名	柄本 健太郎		
ナンバリング	KAa204		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【科目の性格】

本科目は、人間発達心理学科の専門科目である。生涯発達領域の「乳幼児期の心理学」や「青年期の心理学」「中高年期の心理学」などと関連が強い。児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面からとらえると共に、学童期の最も重要な側面として社会性育成の視点について理解を深める。

【科目の概要】

自己概念や道徳性の発達過程、遊びや仲間関係の発達・変化など、児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面について学ぶ。また同時に、児童虐待や発達障害など、児童期の子どもたちに特徴的な問題についても取り上げ、児童への幅広い考察をねらいとする。

【学修目標】

児童期の心理を理解するための基本的な枠組みを身につける。

将来、子どもに関わる職業に就く学生や将来子どもを持つ学生が、自身の子ども観を再認識し、知識を深める。

本科目は「こどもサポーター（こころの支援）」資格要件科目です。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	イントロダクション～児童期の特徴
2	児童期を取り巻く発達理論
3	児童の心の理解 言葉の発達
4	児童の心の理解 認知の発達
5	児童の心の理解 自己意識と自尊感情
6	児童の心の理解 セルフコントロールとレジリエンス
7	児童の心の理解 道徳性の発達
8	児童の心の理解 仲間関係の発達
9	児童の心の理解 社会的行動の発達
10	児童の心の理解 性役割の獲得とアイデンティティ
11	児童期を取り巻く問題 児童虐待とは
12	児童期を取り巻く問題 発達障害の理解
13	児童期を取り巻く問題 不登校とは何か
14	児童期を取り巻く問題 児童への援助～子どもに寄り添うとは
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、

再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】事前にキーワードを調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】桜井茂男[ほか]著 『子どものこころ 児童心理学入門 新版』 有斐閣アルマ 2014

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	青年期の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAa205		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は人間発達心理学科の専門科目であり生涯発達領域の必修科目である。人間の発達段階の内、青年期に焦点をあてる。1年次の発達心理学概論が基礎となる。乳幼児期の心理学、児童期の心理学とあわせて学習することで人間が成人するまでの発達段階を詳しく理解することができる。

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、急激な身体的変化や認知能力の発達によって、多くの者が、それまで気がつかなかった自分自身のことや、人間関係、社会との関わりについて深く考え、ときに思い悩むようになる。青年期には何が起るのか、青年期とは私たちにとってどのような意味を持っているのか。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。

青年期について理解を深めることはもちろんであるが、青年期の最中にある受講生諸君にとって、講義内容を自分自身の問題としてとらえ自ら考える契機と成ることも目標とする。

内容

1	ガイダンス：授業の概要
2	青年期とは
3	青年心理学の成立
4	青年心理学の研究手法
5	大人になること
6	青年期の身体的変化
7	青年期の自己(1)自己理解・自尊感情
8	青年期の自己(2)アイデンティティ
9	性役割
10	理解度の確認
11	将来決定(1)：職業興味検査
12	将来決定(2)：進路決定と職業
13	青年期の人間関係
14	青年期の感情
15	まとめ

評価

期末テスト60%+中間テスト30%+授業内の課題10%とする。60点以上を合格とし、達しない場合再試験を行う。

中間テスト,授業内での課題は返却する。期末テストは成績をもってフィードバックとする

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、予習してくる。

【事後学修】授業内容についてノートを整理し復習をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング	KAa406		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、心理学科の必修科目として、現在我が国に於いて中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せ、実感を伴った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。とりわけ、女性であるからこそ、来る自らの中年期と高齢期の生活をどのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになる知識と、現実考察能力を高めることを目指し、開講する。

科目の概要

我が国には、様々な不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、何らかの障害を心身に持つことであつたり、少数派であることであつたりと多様である。本科目は、このような社会状況を前提に、中年期と高齢期に直面する諸課題について、具体的な題材を手掛かりに自らの在り方を内省する作業を通し、その対処方策をそれぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

本科目は、 1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか?、 2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか?、 3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が市民として成し得ることは何なのか?、の3点について、現実社会のリアルな社会問題について、分析・解釈・考察できるようになることを、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について、ペアワークを通して主体的かつ能動的に言語化しながら考えることから、学習をスタートする。次に、ペアワーク (言語化された双方向の意味世界共有作業) により得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。

なお、各開講回別に取り上げる題材のテーマ・内容は、以下の通りである。

1	ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要
2	「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい
3	「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み
4	「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待
5	「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実
6	「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方
7	「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差
8	「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常
9	「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き
10	「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか?
11	「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実
12	「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実

13	「不妊治療・生殖医療の現実と新たな生命」：中年期の晩婚親側の論理と生命倫理
14	「代理出産ビジネスの現実と経済的格差による女性の尊厳への搾取」：経済的誘惑の実情
15	学習のまとめ：「暴力の連鎖と自分（非暴力・市民的不服従の観点から）」

評価

評価内容の構成は、平常点70%（「5点/回」×14講義回=70点）と、期末レポート30%（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『題材振り返りの小レポートの内容』を指す。【フィードバック】重要な論点を含むに「題材振り返り小レポート」の内容は、次回講義時に紹介し、学生にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課します。

【事後学修】毎講義内に提示する題材について、教員が示した論点から題材を振り返る課題を課します。「振り返り」の結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、評価に含めます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の書籍に受講前に目を通しておくことが望まれる。

【推薦書】「ソーシャル・キャピタル入門；孤立から絆へ」、稲葉 陽二(著)、中央公論新社、2011.

科目名	子育て支援論		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング	KAa407		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳幼児期～成人に至るまでの個人の発達プロセスについては、既に学んでこられたことと思います。この科目では、世代の異なる個人の発達プロセスが家族という場で重なり合い、育て・育てられる関係を結ぶ時に何が起きているかを見ていきます。具体的な支援のハウツーではなく、「子育て」という営みに現れる大人・子ども双方の発達や、子育て支援が必要とされる社会的な背景についての理解を深めることを目指します。

科目の概要

この科目では、主に家族心理学の知見を学びながら、現代の子育ての問題について考えていきます。

Bio - Psycho - Socialという各方面から多角的に眺めてみると、子育てには今も昔も変わらない大事なことがある一方で、時代によって変化を迫られている面もあることが見えてきます。現代の子育てに特有の困難とは何か、どのような支援が求められるかを考えながら、人間の営みは個人 - 家族 - 社会という階層的なシステムの各層が相互に影響しあう中で展開していることを理解したいと思います。

学修目標 (= 到達目標)

1. 子育てという営みに現れる家族メンバー間の関係を多角的に理解する視点を養う。
2. 現代の子育てが抱える困難を把握し、求められる支援の方向性に対する自分の考えを持つ。
3. 自分が育てられてきた体験、自分の家族観を相対化する視点を持つ。

内容	
1	家族とは何だろうか (テキスト1,3,4章)
2	現代の家族 (テキスト2,5,6,7章)
3	母性神話を再考する (テキスト21章)
4	育児ストレス (映像資料視聴)
5	育児ストレスはなぜ起こるか (テキスト18章)
6	子育て期の家庭生活 (テキスト8,9章)
7	子育て期の夫婦関係 (テキスト10,11章)
8	男女共同参画社会と家族 (テキスト12, 13, 30章)
9	家族にふりかかるストレス (テキスト29章)
10	現代の親子関係 (テキスト14,15,16,17章)
11	家族システム論 (テキスト23,25章)
12	家族に対するカウンセリング (テキスト20章)
13	子育て支援の制度・社会資源
14	地域子育て支援
15	まとめ

評価

授業内での提出物（感想のコメントペーパー含む）70%，最終課題30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章（「内容」欄参照）を読み，わからない用語を調べ，図表の読み取りをしておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。

【事後学修】テキストの該当章と授業ノートをふり返り，授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり，発展的な学習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス

高橋恵子『人間関係の発達心理学』東京大学出版会

【参考図書】授業中に紹介します。

科目名	心理学基礎論		
担当教員名	石田 有理、柏葉 修治		
ナンバリング	KAa208		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生涯発達科目 専門科目

科目の概要

心理学には幅広い領域があり、社会における様々な場面で活用されている。日本心理学諸学会連合は、多くの領域をわかりやすくまとめた10領域からなる「心理学検定」を年1回実施している。10領域のなかでも、基礎的なA領域のうち3科目において、各領域で何を学ぶかを理解し、知識と理解を深める。取り上げる科目は、「発達・教育」「学習・認知」「臨床・障害」の3科目である。各領域における重要なキーワードを学び、模擬問題に取り組みながら、心理学検定2級合格をめざす。

学修目標 (= 到達目標)

心理学における基本的な領域がどのようなものを学ぶ

各領域における基礎的な知識を得る

内容

1	ガイダンス：心理学における領域とは
2	発達
3	発達
4	臨床
5	臨床
6	学習
7	学習
8	中間まとめ
9	教育
10	教育
11	障害
12	障害
13	認知
14	認知
15	まとめ

評価

授業への参加度10% 中間試験40% 期末試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

試験は採点して授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】模擬問題への回答

【事後学修】キーワードや概念の整理

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】心理学検定 公式問題集

【推薦書】心理学検定 基本キーワード

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb109		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

臨床心理学とは一体何か。それはこころの問題に対して、心理学的な援助を行うための学問である。しかし、こころとは一体何で、そして心理学的な援助とは一体何だろうか。本授業では臨床心理学の全般的な知識を学ぶと同時に、それが時代の変化と深く関わってきたことを取り上げる。最終的には、現代にあって臨床心理学とは一体何かを理解することが目指される。

学修目標 (= 到達目標)

臨床心理学が時代の中でどのように発展してきたのかを理解することで、この学問がどのような性質の学問であり、この学問を学ぶことにはいかなる意義があるのかを理解する。

内容	
1	イントロダクション 現代の臨床心理学
2	夜明け前の臨床心理学 シャーマン・狐憑き・精神医学
3	フロイトの精神分析 無意識の発見
4	フロイトの精神分析 転移の発見
5	「理想の時代」のロジャース 高度成長期の臨床心理学
6	関係すること カウンセリング・マインドの展開
7	ロジャースを知る
8	「虚構の時代」の河合隼雄
9	箱庭療法と心理学すること
10	ユング心理学入門
11	「動物の時代」の臨床心理学 文化の問題
12	認知行動療法入門 動物とコンピューターの心理学
13	対象関係論 赤ん坊の心理学
14	臨床心理学と非臨床心理学
15	まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】適宜指示する

【参考図書】適宜指示する

科目名	発達臨床心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

本科目は、これまで学んできた発達理論、発達研究を実際の発達支援に生かすための応用力を培うための科目です。

科目の概要：

出生前から高齢期にいたる各ライフステージにおける発達とその支援について学習します。また、精神疾患の基礎知識、発達障害の基礎知識などについて受講者とともに考えていく予定です。

学修目標：

- 1．各ライフステージにおける発達とその支援について理解する。
- 2．精神疾患の基礎知識を学ぶ。
- 3．発達障害の基礎知識を学ぶ。

内容

- 1.オリエンテーション
- 2.発達臨床心理学とは
- 3.胎生期～新生児期における発達とその支援
- 4.乳児期における発達とその支援
- 5.幼児期における発達とその支援
- 6.児童期における発達とその支援
- 7.青年期における発達とその支援
- 8.成人期における発達とその支援
- 9.高齢期における発達とその支援
- 10.精神疾患 (1)障害とは (2)精神疾患とは
- 11.発達障害 (1)発達障害とは (2)代表的な発達障害
- 12.グループ発表(1)
- 13.グループ発表(2)
- 14.グループ発表(3)
- 15.まとめ

評価

100点満点中、日常点（課題提出・小テスト・授業態度・発表など）40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が100点満点中60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読んでおいてください。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に基づいて、講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	カウニング理論		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAb111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は必修科目である。カウニングとはある人が抱える問題や悩みに対して、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助のことである。したがって、この科目を学ぶことは、自他問わずメンタルヘルス対策につながる可能性がある。また、2年次に学ぶカウニングの基礎 (技法) の礎となる重要な科目でもある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な解決方法のひとつにカウニングがある。その基礎基本となり、支える諸理論 (精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等) を専門的に学ぶ。

学修目標

カウニングとはいかなるものかを事例やロールプレイなどの体験を通して、その知識や理解を深める。とくに、ロールプレイは実践的に学ぶうえで欠かせなく、体験的に授業を進めるために、積極性や協調性などが身につく。また、心理的問題や悩みなどの解決方法も身につくので、日常生活などでの活用が深まる。したがって、授業では他者への積極的関与を意識し学修することが求められる。

内容

1	はじめに
2	カウニングとは (歴史、語源、定義等)
3	カウニングと心理療法の異同、カウンセラーに必要な知識と技術 (傾聴、受容、共感)
4	カウニングを支える代表的な理論 (精神分析的カウニング) (1)
5	カウニングを支える代表的な理論 (精神分析的カウニング) (2)
6	カウニングを支える代表的な理論 (認知行動カウニング) (1)
7	カウニングを支える代表的な理論 (認知行動カウニング) (2)
8	カウニングを支える代表的な理論 (来談者中心カウニング) (1)
9	カウニングを支える代表的な理論 (来談者中心カウニング) (2)
10	プロセスとしてのカウニング (カウニングマインド、信頼関係の構築)
11	心理アセスメントについて、目的、方法、実施
12	心理テストについて、方法と実施
13	その他のカウニングの諸理論 (家族療法、箱庭療法) 及び展開例
14	カウニングの事例から学ぶ
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への解答や授業中の態度や姿勢（30%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上の出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回行う授業場面を想定し、1時間程度は使用するテキストをしっかりと読み込むこと。

【事後学修】ノートなど活用し、毎時間に学習したことを1時間程度は各自で整理しておくことが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）授業中に指示する

（推薦書）「よくわかる 心理学（心の謎にせまる）」 池田書店（著者）尾形佳晃

（参考図書）教室で紹介する

科目名	精神病理学		
担当教員名	小原 美樹		
ナンバリング	KAb312		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科 2 年次の選択科目のひとつである。

科目の概要

精神医学の歴史、精神病理学の主要な理論・概念を概観するとともに、精神医療現場で日常的に出会う主な疾患である統合失調症、気分障害 (うつ病性障害、双極性障害) を中心に、様々なこころの病の特徴を理解する。またそれらの病を抱える人々にとって必要とされる心理社会的支援について紹介する。

学修目標 (= 到達目標)

代表的な精神疾患の基礎知識を学び、心を病むとはどのようなことなのかを考察し、私たち人間の心の働きについての理解を深める。

内容

3日間で以下の内容を学習する。

- ・心の病の歴史
- ・精神病理学の誕生経緯と主要な理論・概念
- ・各精神疾患の基礎知識
- ・心を病む人々への心理社会的支援

評価

授業への参加度30%、授業内のテスト30%、最終日に課す小レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】特になし
- 【事後学修】特になし

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】特になし
- 【推薦書】
 - ・小俣和一郎「精神医学の歴史」(第三文明社)
 - ・松本雅彦「精神病理学とは何だろうか」(星和書店)
- 【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	精神保健		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb313		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する全般的な知識を得ることを目的とします。

科目の概要

「心の健康と病理とは一体何か」を大きな問いにしながら、現代社会における心の病について考えていきます。各心の病についての知識を深めるとともに、実際の臨床現場でそのような知識をどのように生かしていくのかを具体的な事例と共に学んでいきたいと思ひます。

学修目標（=到達目標）

精神保健の対象について縦断的および横断的に理解する。

授業で学んだ内容について、自分なりの活かし方を習得する。

内容

1	イントロダクション 授業の取り決め
2	精神保健とは
3	うつ
4	いじめ
5	非行
6	心因性の問題神経症
7	不登校
8	発達障害
9	A D H D
10	L D
11	虐待
12	精神保健を実践する
13	精神保健を実践する
14	精神保健を実践する
15	まとめ

評価

各回のレポートが20点、テストが80点とし、総合評価60点以上を合格とする。

ただし、事例発表を行った者には30点を予め付与する。

授業外学習

【事前準備】発表を行う者は事例のまとめ

【事後学修】関連文献を読んでくる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特になし。適宜推薦する

科目名	乳幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格 :

本科目は、これまで学んできた発達心理学や教育心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。

2. 科目の目標 :

乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。

3. 学修目標 :

- (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題についての理解。
- (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題の理解。
- (3) 発達の支援に関する理解。

内容

1. オリエンテーション
2. 発達とは 発達の課題とは
3. 発達の基礎理論
4. 胎生期～周産期の心理臨床
5. 新生児期の心理臨床
6. 乳児期の心理臨床 (1)
7. 乳児期の心理臨床 (2)
8. 幼児期の心理臨床 (1)
9. 幼児期の心理臨床 (2)
10. 幼児期の心理臨床 (3)
11. グループ発表
12. グループ発表
13. グループ発表
14. 発達の支援
15. まとめ

評価

100点満点中、授業への参加度 (課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが100点満点中60点に満たない場合は、不合格とします。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書該当部分を予め読んでおいてください。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に基づいて、講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著（2015）『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	児童期から青年期の心理臨床		
担当教員名	青山 有希		
ナンバリング	KAb315		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科専門科目で心理臨床領域の科目である。主に、児童・青年期における精神面の発達上の問題 (問題行動や不適応、精神的疾患など) について、その種類と特徴、原因、支援方法などを学ぶ。「児童期の心理学」「青年期の心理学」などと関わりが深い。ピアヘルパー取得要件科目 (領域) にあたる。

科目の概要

心身の変化が大きい児童期から青年期という時期に、子どもたちがどのような心理的状态にあり、どのような問題に直面するのかを学ぶ。また、問題行動や症状を呈している子ども・その家族に対して、専門職がどのように見立て、関わり、支援を行うのかという点について事例を通して、感じ考え学んでいく。

学修目標 (= 到達目標)

児童期・青年期の子どもたちが直面するさまざまな心理的問題の理解とその対応について、事例を通してその知識と理解を深める。(例 : 発達障害・性・いじめ・不登校等について)。日頃から新聞やニュース等で関連のある出来事について意識しておいたり、自身の今までの学校生活等を振り返ったりすることが望ましい。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	はじめに (オリエンテーション)
2	児童期の特徴
3	青年期の特徴
4	不登校とその支援
5	発達障害とその支援
6	性の問題とその支援
7	いじめの問題とその支援
8	虐待の問題とその支援
9	心理臨床でこころがけたいこと
10	中間まとめ
11	グループワーク
12	グループワーク
13	グループワーク
14	グループワーク
15	振り返り

評価

課題については翌週以降にコメントする。授業に取り組む姿勢や態度と課題（30%）、筆記試験（70%）、2/3以上の出席を必須とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】15分から30分程度その日のテーマについて、自身や身近にあったことを振り返っておく。

【事後学修】15分から30分程度配布した資料を再度読み直し、理解を深めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】子どものこころを育てる「ひとこと」探し 菅野 純著 ほんの森出版 2002

子どもの問題と「いまできること」探し 菅野 純著 ほんの森出版 2005

【参考図書】教室で紹介する

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング	KAb416		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、心理学科の専門選択科目として、前期開講の心理学科必修科目「中高年期の心理学」で得た現実認識能力を前提に、今、実際に生きている人々の語り・言葉を手掛かりに、個別事例について中高年期に特有な心理状態を分析し考察する能力の獲得を目指し、開講する。

科目の概要

世界中で起きているさまざまな現実のひずみに関し、人は、自らの心の平穏を保つために「あえて見ないようにする」ことがある。また、仮に自分の目に入っても、自分の耳に聴こえてきても、「他者がそのような状況にあるのは分かったけれど、自分は体験したことがないので、リアルに感じられないから」と理由をつけ、気にかけてない・働きかけてない・自分に出来ることをしないとといったことをする場合がある。本科目は、このような現実認識を前提に、中高年期の諸課題を、他者の「語り」を通して実感的に理解し、分析・説明・解釈できる力を獲得することを、目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

本科目は、 1) 「体験してないから分からない」という論理の中にいる自分は何に囚われているのか？、 2) 世界中の中高年の現実に対し一人の市民として貢献し得る側面は何なのか？、 3) 中高年期に固有な支援内容の詳細とは何なのか？、について、一般論ではなく個別対象に則して、それらを分析・考察・判断できる能力を高めることを、目標とする。

内容

本科目では毎講義回、学習方法に「ペアワーク (双方向に言語化が試みられた結果としての『異なる意味世界』の共有実践) 」を用いる。ペアワークでは、我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材とし、その題材内容・論点に対する自らの有り様・立場について、主体的かつ能動的に言語化しながら考えることを課す。次に、ペアワークにより得た「気づき」を前提に、関連した専門知識を講義形式により学習する。各開講回に取り上げる題材のテーマは、以下の通りである。

1	講義の進め方と成績評価方法の説明と、次回までの課題を提示
2	「最先端の科学技術と更新されにくい倫理観と自分」：晩婚化する中年期女性の新たな苦悩
3	「母親としての中高年期と自分」：出生前診断の発達と障害を持つ子の親になること
4	「ボランティアな他者への慈しみと自分」：家族を守る役割と中年期女性 (骨髄バンクの現実)
5	「出産することと自分」：新生児医療と初産女性が直面しやすい現実 (パルモア病院の取組み)
6	「障害を持った子どもは、とりわけ育児が難しいのか？」：ダウン症児への育児的関わり
7	「セクシャルマイノリティと自分」：文化再生産の担い手としての中高年期と少数派差別
8	「文明と自分 (自分が幸せなのは文明的だからなのか？) 」：ヤノマミ族の生活と幸せの条件
9	「養子縁組で親子関係を創ることと自分」：養子を迎えるまでの中年期夫婦の日々
10	「老親介護で自分は何を重視するのか？」：中年期の実親への介護と、外国人労働者の上昇志向
11	「人間の命の重さと商業主義と自分」：H I V コピー薬と特許保護を主張する企業の論理
12	「『エコな生活を志向する自分と世界』：洗剤原料生産のプランテーション農業と日常生活
13	「無縁社会と自分」：無縁死・孤独死していく高齢者と他者との繋がり

14	「生涯未婚と自分」：血縁・地縁・婚姻縁に頼った繋がり方を越えた高齢期の新たな関係観
15	学習のまとめ：新たな中高年期を生きる世界市民として、自分を見つめて

評価

評価内容の構成は、平常点70%（「5点/回」×14講義回=70点）と、期末レポート30%（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『題材振り返りの小レポートの内容』を指す。【フィードバック】重要な論点を含むに「題材振り返り小レポート」の内容は、次回講義時に紹介し、学生にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課す。

【事後学修】毎講義内に提示する題材について、教員が示した論点から題材を振り返る課題を課す。「振り返り」の結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、評定に含める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として以下の書籍に受講前に目を通しておくことが望まれる。

【推薦書】「家族が高齢者虐待をしてしまうとき」、加藤伸司・矢吹知之(著)、ワールドプランニング、2012.

科目名	障害児・者の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb417		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

学修目標（＝到達目標）：

- 1．障害の理解。
- 2．各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
- 3．上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは
- 3 自閉^o外^o症児・者の心理学的特徴と支援（1）
- 4 自閉^o外^o症児・者の心理学的特徴と支援（2）
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援
- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 グループ発表（1）
- 13 グループ発表（2）
- 14 グループ発表（3）
- 15 まとめ

評価

100点満点中、日常点（課題提出・小テスト・授業態度・発表など）40％と、期末テストの成績60％を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書あるいはプリントの該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	心理療法		
担当教員名	堀川 聡司		
ナンバリング	KAb418		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、講義の内容を出発点として、参加者各自の自習、積極的な意見交換が求められる、学生参加型の授業である。

科目の概要

今日「心理療法」と名づけられる心理療法は数えきれないほどある。これほど多様な心理療法が生まれることになった理由は、実践現場におけるニーズに従ったからに他ならない。本科目では、そのように多様化した心理療法の世界を概観し、各々の心理療法がどのような歴史的文脈から生まれてきたのかを学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

心理療法という実践がどのようなものか、その概観を掴み、自身が関心を持った心理療法 (少なくとも一つ以上) について、その理解を深める。

内容	
1	イントロダクション
2	心理療法史
3	心理療法以前のこころの治療
4	精神分析の誕生
5	フロイトの精神分析
6	フロイト以後の精神分析
7	行動療法・認知療法 1
8	行動療法・認知療法 2
9	来談者中心療法
10	芸術療法
11	集団療法
12	家族療法
13	遊戯療法
14	日本独自の心理療法
15	まとめ

評価

出席点・平常点を30点、期末レポート70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】心理療法に関する書籍を何か一冊読んでおくことが望ましい

【事後学修】関心をもった心理療法について、さらに学習を進めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】乾(2005)『心理療法ハンドブック』（創元社）

【参考図書】東畑(2015)『野の医者笑う』（誠信書房）、堀川（2016）『精神分析と昇華』（岩崎学術出版社）

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb419		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知見を基礎として、「心理学」が社会のさまざまな場で、どのように役立っているのかを実習を通して具体的に理解する科目です。

科目の概要

いくつかの臨床現場（医療・保健の施設や機関、学校教育および関連する施設や機関、社会福祉関連の施設や機関）に向いて見学させていただくとともに、現場で従事されている専門家の方からのお話をうかがいます。事前のガイダンスと事後のまとめを見学ごとに行います。

学修目標

知識として学んできた発達心理学や臨床心理学などが現場でどう生きているか、現場で「心理学を活かすこと」にどんな難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深めます。さらに、受講生が自分の将来の道を考える上での「心理学を活かす」という視点を実質化することを目指します。

内容

1. 現場（医療・保健関連、学校教育関連、社会福祉関連の施設や機関を予定）への見学等が学習活動に含まれます。
2. 現場見学にあたっては、事前のガイダンスを実施します、事後のまとめを実施します、見学にかかる経費（交通費など）は受講生の自己負担となります。
3. 見学を実施する時期は、通常の授業が行われない日程となります（例えば集中講義期間、春期休業期間）。
4. 現場見学を行うために、受講生の人数（上限）を設定します。
5. 見学先、時期、受講制限などについては、学科オリエンテーションにて説明します。

評価

見学ごとのレポート（100点）にて評価し、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

- 【事前予習】見学予定の施設に関して事前に十分学習し、見学の視点を明確にしておいてください。
- 【事後学修】各施設の見学で学んだことを整理し、最終的にレポートを作成してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】事前ガイダンスにて、お伝えします。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

- 【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること
- 【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格と

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc222		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の選択専門科目である。発達心理学や臨床心理学の基礎を理解したうえで心理学に関する英語文献を精読する必要があるので、「発達心理学概論」「臨床心理学概論」などの科目を履修済であることがもとめられる。

科目の内容

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を見ることができる。大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生には受講をすすめる。

学修目標

- ・ 英語文献の要点を読みとることができる
- ・ 英語文献の内容を理解しまとめることができる
- ・ 英語文献を読むことを通し、様々な文化の中での発達の様子を知る

内容

15回の授業を通して、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。文献は担当者が用意する。

- ・ 発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。
- ・ 臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

毎回指定箇所の内容をレジюмеにして発表してもらう。

評価

毎回のレジюме作成・発表 (50%)、期末試験 (50%) とし、総合得点60点以上で合格とする。

授業内でレジюме・発表の内容について講評を行う。期末試験は採点して個別に返却する。

授業外学習

【事前予習】当該箇所を事前に訳し、レジюмеにまとめてくる。

【事後学修】授業内での発表に対する教員のコメントを確認し、内容の理解を深める。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指定する。M.Cole「the development of children」, 「Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology」などから抜粋して読む予定。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究 (主に卒業研究) を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

予定する講義内容は以下の通りである (キーワードのみ示す) ;

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心理学の歴史その1：哲学からの分離。ウェーバーとフェヒナー
3. 心理学の歴史その2：行動主義と動機づけからみる分野の発展。
4. 調査・質問紙法その1：質的研究と量的研究。相関仮説と構成概念。測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成。縦断研究と横断研究。妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法。「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念。行動指標と生理指標。尺度の4種類
8. 実験法その2：実験計画。統制条件。1要因と2要因。参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法。下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法。観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究、実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法、実験、観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える。自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. まとめと総括：果たして心は測れるのか？

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格

とする。

授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2) 理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究 (主に卒業研究) を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

予定する講義内容は以下の通りである (キーワードのみ示す) ;

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心理学の歴史その1：哲学からの分離。ウェーバーとフェヒナー
3. 心理学の歴史その2：行動主義と動機づけからみる分野の発展。
4. 調査・質問紙法その1：質的研究と量的研究。相関仮説と構成概念。測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成。縦断研究と横断研究。妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法。「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念。行動指標と生理指標。尺度の4種類
8. 実験法その2：実験計画。統制条件。1要因と2要因。参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法。下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法。観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究、実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法、実験、観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える。自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. まとめと総括：果たして心は測れるのか？

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格

とする。

授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと, 2) 理解できなかったことや疑問, を箇条書きにして要点を整理する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

高野陽太郎, 岡隆 編 (2004) 心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし (有斐閣アルマ)

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc024		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎を身につける。卒業研究までの多くの専門科目において基礎となる事項を学ぶ。

科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

学修目標

統計手法の実践力を身につけること、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力を学ぶことが目標である。ほぼ毎回宿題を課すので確実に解答すること。

内容

- 1 . ガイダンス、心理統計法の意義
- 2 . 心理データの測定と尺度
- 3 . 度数分布
- 4 . 統計図表 (質的変数の図示法、量的変数の図示法)
- 5 . 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
- 6 . 散布度 (分散と標準偏差、範囲、四分領域)
- 7 . 正規分布と相対的位置
- 8 . 2 変数間の相関、線形回帰
- 9 . 2 つの平均の比較 (t 検定)
- 10 . クロス集計
- 11 . 2 乗検定と連関係数
- 12 . 3 つ以上の平均の比較 (分散分析)
- 13 . 記述統計の確認
- 14 . 統計的検定の応用
- 15 . まとめ

評価

授業内課題の提出と出席は評価の前提条件である。

筆記試験（統計計算と検定が中心）を100点満点により評価を行う。
所定の試験で合格に達しない場合は、夏期休業期間に再試験を行う。

授業外学習

- 【事前準備】シラバスに基づいて、該当する教科書に目を通すこと
- 【事後学修】出題された課題（宿題）について、受講内容を確認しながら解答する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房
- 【電卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること（毎時使用します）

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本 : 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう : 一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある? : 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本 : 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう : 一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある? : 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本 : 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう : 一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある? : 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc125		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. ガイダンス 心理学情報処理法で何を学ぶのか
2. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
3. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
4. 統計処理の基本 : 平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
7. 2項目間の偏りを調べよう (クロス集計表と 2検定)
8. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のない t 検定
9. 2つの平均値に差があるか調べよう : 対応のある t 検定
10. 2項目間の関連を調べよう (相関係数)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう : 一元配置分散分析
12. どの組み合わせに差がある? : 分散分析後の多重比較
13. 調査データの集計・分析
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

授業外学習

- 【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する。
- 【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5=100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5=100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc126		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (2) 囚人のジレンマ
 - (3) 二点弁別闘
 - (4) 心的回転
 - (5) 調査法1：尺度作成
 - (6) 調査法2：集計解析
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5=100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各実験課題の概要や手順をテキストを読んで確認しておく

【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理アセスメント		
担当教員名	東畑 開人、中村 有		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- ・心理アセスメントの説明：心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などを解説する。
- ・心理アセスメントの実施：実際に使用する器具や道具を用いながら、実習を行う。さらに、各アセスメントについて結果の整理の仕方や返却の注意点などについて学ぶ。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・アセスメントという心理査定法の目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解できるようにする。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

1) ガイダンス：心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

2) 実習：アセスメントの実施と結果の整理を行う。

取り上げる予定のアセスメントは、以下の通りである。

- ・ウェクスラー式知能検査
- ・新版K式発達検査
- ・バウムテスト
- ・内田クレペリン・・・など

3) まとめ：アセスメントごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各アセスメントについての課題70点と平常点30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理アセスメント		
担当教員名	東畑 開人、石田 有理		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- ・心理アセスメントの説明：心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などを解説する。
- ・心理アセスメントの実施：実際に使用する器具や道具を用いながら、実習を行う。さらに、各アセスメントについて結果の整理の仕方や返却の注意点などについて学ぶ。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・アセスメントという心理査定法の目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解できるようにする。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

1) ガイダンス：心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

2) 実習：アセスメントの実施と結果の整理を行う。

取り上げる予定のアセスメントは、以下の通りである。

- ・ウェクスラー式知能検査
- ・新版K式発達検査
- ・バウムテスト
- ・内田クレペリン・・・など

3) まとめ：アセスメントごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各アセスメントについての課題70点と平常点30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直すしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理アセスメント		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- ・心理アセスメントの説明：心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などを解説する。
- ・心理アセスメントの実施：実際に使用する器具や道具を用いながら、実習を行う。さらに、各アセスメントについて結果の整理の仕方や返却の注意点などについて学ぶ。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・アセスメントという心理査定法の目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解できるようにする。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

1) ガイダンス：心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

2) 実習：アセスメントの実施と結果の整理を行う。

取り上げる予定のアセスメントは、以下の通りである。

- ・ウェクスラー式知能検査
- ・新版K式発達検査
- ・バウムテスト
- ・内田クレペリン・・・など

3) まとめ：アセスメントごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* アセスメント毎に、ガイダンス、実習（実施と結果の整理）、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各アセスメントについての課題70点と平常点30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc428		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識が求められるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定 (2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定 (t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 (因子分析)

評価

期末レポート50点、中間テスト30点、授業内の課題10点、平常点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。中間テスト、授業内の課題は添削の上返却する。期末レポートについては成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

- 【事前予習】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストなどを使って調べ予習をしてくる。
- 【事後学修】実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	中江 須美子		
ナンバリング	KAc428		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識が求められるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

科目の概要

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択，分析結果の読み方，解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定：質的データの検定 (2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定 (t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 (因子分析)

評価

期末レポート50点，中間テスト30点，授業内の課題10点，平常点10点により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。中間テスト、授業内の課題は添削の上返却する。期末レポートについては成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前準備】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストなどを使って調べ学習をしてくる。

【事後学修】実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。

科目名	心理学実験演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc329		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目。

心理学研究法のひとつに「実験」がある。実験を作成する技法（たとえば、パワーポイントなど）を学ぶ。単に技法を習得するだけでなく、実験の刺激や課題の作成を通して、「実験デザイン」を理解すると同時に、研究を「論理的に組み立てる」力を身につけてほしい。

科目の概要

- 1) 自ら実験参加者となって、さまざまな心理学実験（コンピュータ制御による実験）を体験する。
- 2) 実験デザイン（刺激や課題の設定、データの収集法など）について学ぶ。
- 3) 自ら作成した実験を用いて、データの収集、解析（SPSS）、考察を行う。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 「心理学実験」そのものに慣れ親しむ
- 2) 「ものごとを論理的に考える・組み立てる力」を身につける
- 3) 「心理学的な視点（問題・仮説を設定する力）」を身につける
- 4) 「実験をデザインする力（科学的に検証する力）」を身につける

内容

授業は、ひとつの実験テーマにつき

3ステップ「実験に参加する」「データを分析する」「レポートにまとめる」を基本として進める。

受講者自ら実験参加者となり、さまざまな実験を体験しながら、実験研究のあり方を実践的に学ぶ。

同時に、コンピュータの基本的な操作から、実験プログラムの作成、データ解析の方法まで、順を追って、技法を丁寧に習得する。

受講者数および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更することがある。

評価

基礎課題の提出30点、応用課題の提出30点、実験レポート（発表含む）提出を40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】習得した「技法」を用いて課題を作成する

【事後学修】新たな「技法」を用いて課題を作成する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	調査法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してこること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻りに用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してこること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してこること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

調査法に関する講義と心理尺度項目作成の実習を並行して行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、実際に調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 仮説の検討例 (相関分析、 χ^2 検定など)
14. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してくること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることを目的とする。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

学修目標

質問紙調査の技法を身につける。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても理解する。

内容

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. データ分析 (1) 心理尺度の項目分析
12. データ分析 (2) 尺度の信頼性・妥当性の検討
13. データ分析 (3) 心理尺度の得点化
14. データ解析 (4) 仮説の検討 (相関分析、t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

最終レポート60%+授業への参加状況40%で評価し、60点以上を合格とする。実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してこること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	面接法		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。心理学のデータ収集の技法には観察法、実験法、質問紙法などがあるが、面接法もそのなかのひとつである。本科目はとくにこの面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

学修目標 (= 到達目標)

心理学におけるデータ収集法のひとつである「面接法」、とくに「調査的面接法」に対する興味・関心、そして理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指す。予定する講義内容は以下の通りである。

《注意》本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

内容	
1	調査的面接法とはなにか
2	調査的面接法の分類 - 構造化面接法、半構造化面接法、非構造化面接法
3	データ収集法の組み合わせ
4	調査的面接法のデザイン - 調査テーマ・調査目的・仮説・標題の決定
5	調査的面接法のデザイン - シナリオの作成
6	調査的面接法のガイドライン
7	相互信頼感形成の技法 - バランスのとれた相互信頼感 (ラポール)
8	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 分類、動作学のスキル
9	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 周辺言語学のスキル、その他のスキル
10	データ処理の技法 - エディティング、トランスクリプト作成
11	研究テーマの決定、シナリオの作成、調査的面接 (インタビュー) の実体験 1
12	調査的面接の実体験 2
13	データ処理の技法 - コーディング、データ分析、M-GTA
14	研究テーマに基づいた発表
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（35%）、発表内容（65%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

科目名	面接法		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。心理学のデータ収集の技法には観察法、実験法、質問紙法などがあるが、面接法もそのなかのひとつである。本科目はとくにこの面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

学修目標 (= 到達目標)

心理学におけるデータ収集法のひとつである「面接法」、とくに「調査的面接法」に対する興味・関心、そして理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指す。予定する講義内容は以下の通りである。

《注意》本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

内容	
1	調査的面接法とはなにか
2	調査的面接法の分類 - 構造化面接法、半構造化面接法、非構造化面接法
3	データ収集法の組み合わせ
4	調査的面接法のデザイン - 調査テーマ・調査目的・仮説・標題の決定
5	調査的面接法のデザイン - シナリオの作成
6	調査的面接法のガイドライン
7	相互信頼感形成の技法 - バランスのとれた相互信頼感 (ラポール)
8	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 分類、動作学のスキル
9	ノンバーバル・コミュニケーションの技法 - 周辺言語学のスキル、その他のスキル
10	データ処理の技法 - エディティング、トランスクリプト作成
11	研究テーマの決定、シナリオの作成、調査的面接 (インタビュー) の実体験 1
12	調査的面接の実体験 2
13	データ処理の技法 - コーディング、データ分析、M-GTA
14	研究テーマに基づいた発表
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（35%）、発表内容（65%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

科目名	観察法		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

研究法，実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて，行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて，行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて，行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて，行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておいてください。

【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

研究法，実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるようでいて、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて，行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて，行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて，行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて，行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておいてください。

【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	観察法		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

研究法，実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて，行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて，行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて，行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて，行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておいてください。

【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

研究法，実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 行動観察の基本を学びます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1)
3	観察の基本を学ぶ(2)
4	観察の基本を学ぶ(3)
5	映像の行動観察の記述を行う(1)
6	映像の行動観察の記述を行う(2)
7	観察法を用いて，行動の分析を行う(1)
8	観察法を用いて，行動の分析を行う(2)
9	映像の行動観察の記述を行う(3)
10	映像の行動観察の記述を行う(4)
11	観察法を用いて，行動の分析を行う(3)
12	観察法を用いて，行動の分析を行う(4)
13	行動の分析結果の比較を行う
14	分析結果発表
15	まとめ

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%) とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておいてください。

【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告（レポート）をまとめます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容

ゼミ形式で心理検査法について学んでいく。

目的は以下の3つである。

1. 卒業研究で使用できる検査法をマスターする
2. 人の心を理解する際に必要な慎重さを身につける
3. いかにして心を理解するのかを習得する

なお、参加メンバーの希望によって、流動的に習得する心理検査を決めていくこととする。

評価

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	実験計画法		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

内容	
1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み

【事後学修】授業内で行なった学習活動を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	実験計画法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

内容

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み

【事後学修】授業内で行なった学習活動を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	実験計画法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

内容	
1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み

【事後学修】授業内で行なった学習活動を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	実験計画法		
担当教員名			
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

内容

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み

【事後学修】授業内で行なった学習活動を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	実験計画法		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目のひとつである。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。
- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

科目の概要

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する (実験計画、要因統制、材料と課題の設定) 。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・「心理学実験」の参加者を経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

内容

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
4	参加者内1要因実験 (2) 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験 (4) データ解析と考察
7	参加者間1要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
8	参加者間1要因実験 (2) 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験 (4) データ解析と考察
11	混合2要因実験 (1) 要因計画の理解と体験
12	混合2要因実験 (2) 材料と課題の作成
13	混合2要因実験 (3) 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験 (4) データ解析と考察
15	まとめ

評価

授業内課題の実施・提出を55点、実験レポートの提出を45点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み

【事後学修】授業内で行なった学習活動を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	カウセリング技法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc435		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「臨床心理学概論」を基礎としたうえで、「カウセリング基礎 」、「カウセリング基礎 」の応用科目である。

科目の概要

実践的な演習を通して、カウセリングの技法を習得することをねらいとしている。DVDによる映像教材及びロールプレイを行うことで、カウセリング技法を復習する。その後、受講生同士がペアとなり、授業時間以外で試行カウセリングを行う。録画したDVDと発話を逐語録にしたものをもとに、クラスでディスカッションを行う。したがって、授業時間外に2,3時間の事前学習が必須である。

学修目標 (= 到達目標)

- ・カウセリングの疑似的体験を通して、カウセリング技法の理解を目指す。
- ・DVDや逐語録により、自分や他者のカウセリング技法を客観的に分析し、改善点を見出す。

内容

1. イントロダクション 授業の説明
2. カウセリング技法 - 聴く
3. カウセリング技法 - 訊く
4. カウセリング技法 - 考える
5. 試行カウセリングの実践と討議
6. 試行カウセリングの実践と討議
7. 試行カウセリングの実践と討議
8. 試行カウセリングの実践と討議
9. 試行カウセリングの実践と討議
10. 試行カウセリングの実践と討議
11. 試行カウセリングの実践と討議
12. 試行カウセリングの実践と討議
13. 試行カウセリングの実践と討議
14. 試行カウセリングの実践と討議
15. まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、提出物40点と期末レポート40点で総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】試行カウンセリングを行い、レジメを準備する

【事後学修】振り返りを行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業中に適宜指示する

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者（または担当者）から提出してもらう活動報告とともに、レポートや口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う。

授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識／態度／技能を活用できるようにしておく

【事後学修】こどもたちとの関わりの具体的／表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者（または担当者）から提出してもらう活動報告とともに、レポートや口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う。

授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識／態度／技能を活用できるようにしておく

【事後学修】こどもたちとの関わりの具体的／表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd138		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容	
1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60% + 中間テスト30% + 授業内の課題10%により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

中間テスト、授業内の課題は返却する。期末テストは成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげる用語について、資料、テキスト等で調べ予習をしてくる。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd138		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

目標は、社会心理学の基礎知識を身につけることと、さらに社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容	
1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60% + 中間テスト30% + 授業内の課題10%により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

中間テスト、授業内の課題は返却する。期末テストは成績をもってフィードバックとする。

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげる用語について、資料、テキスト等で調べ予習をしてくる。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAd239		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション (要請承諾・説得)
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

評価

授業内の小課題10点、期末テスト90点、の計100点満点により評価を行う。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人関係の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAd340		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。1年次の社会心理学概論で学習した対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学、対人社会心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

対人関係領域の知識を身につけると共に、多彩な研究例から研究の考え方ややり方などの方法論についても理解を深め、受講生自身の問題意識の明確化に活かして欲しい。また受講を通して、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけにもなるとよい。

内容	
1	ガイダンス：対人魅力とは何か
2	好意をどのようにして測定する？
3	側にいる人を好きになる？好きな人の側にいたい！
4	美しい人を好きになる！美しい人に幻滅する！
5	美しく装って魅力を高める - 被服・化粧と対人魅力 -
6	人の心をひきつける性格
7	自分と似た態度を持つ人を好きになる！
8	能力が高い人は本当に好かれる？
9	中間テスト
10	魅力を高める自己開示・自己呈示
11	傷ついた時に側にいてくれる人を好きになる？
12	相手から好かれることの効果
13	環境条件と魅力の関連
14	対人関係の親密化～魅力が力を発揮する時
15	対人関係の進展と崩壊

評価

期末テスト70点+中間テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。出席については、2/3以上の出席が必要。満たさない場合には、単位は取得できない。

授業外学習

【事前予習】次の授業のキーワードについて自分で調べて予習してくる

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd341		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80%+授業内の課題20%とし、総合評価60点以上を合格とする

成績をもってフィードバックとする

授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	産業・組織心理学		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd342		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、産業場面、組織場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

科目の概要

本科目では、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、リーダーシップ、職場のストレスなどを扱う。社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象について講義を行う。

学修目標 (= 到達目標)

さまざまな心理学の知識を、産業、組織、働くという場面にどのように応用可能かを考えながら、産業・組織心理学について理解を深めることを目標とする。

内容

1	産業・組織心理学とは何か? - ガイダンス -
2	ホーソン研究: 物理的環境か心理的要因か
3	作業に関わる心理学: 社会的手抜きと補償
4	仕事への動機づけ研究1: KJ法について
5	仕事への動機づけ研究2: 欲求階層・ERG理論
6	仕事への動機づけ研究3: 内発的動機・外発的動機
7	公正感と自発的行動
8	組織コミットメントと役割外行動(組織市民行動)
9	組織の中でのコミュニケーション: 集団分極化
10	対人葛藤: プラスの効果・バーンアウト
11	リーダーシップ1: 偉人論・特性論
12	リーダーシップ2: PM理論・ライフサイクル理論
13	上司と部下の関係構築: 投資モデルの援用
14	職場での行動の獲得・学習: PDCAサイクル
15	まとめ

評価

小テストあるいはミニレポート(計50点)、期末試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】期末試験については、講義の成績評価をもって代える。授業時に求めるアクション・プランやミ

レポートについては、代表的な意見や興味深い指摘をとりあげ、授業の中で返答する。

授業外学習

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。

【事後学修】学習内容についてノート資料を整理し復習する。小テストを行うこともある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

指定しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

【推薦書】

山口裕幸/金井篤子(編)・「よくわかる産業・組織心理学」・ミネルヴァ書房

田尾雅夫(編)・「組織行動の社会心理学」・北大路書房

小口孝司/楠見孝/今井芳昭(編)・「仕事のスキル」・北大路書房

原マサヒコ・「トヨタのPDCA」・あさ出版

科目名	職場のメンタルヘルス		
担当教員名	深瀬 砂織		
ナンバリング	KAd443		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

労働者のストレス、メンタルヘルスに関する内容である。

「健康心理学」や「産業・組織心理学」との関連が強い。

科目の概要

労働者を取り巻く社会の現状、ストレスが心身に及ぼす影響、ストレスとの付き合い方について学ぶ。受講生のうち希望者は「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」を受検することができる。

学修目標（＝到達目標）

- ・労働者を取り巻く現状、ストレスやメンタルヘルスについての基本を学ぶ。
- ・ストレス・マネジメントを日常生活で役立てる基礎をつくる。
- ・メンタルヘルス・マネジメント検定 種受験希望者はその合格を目指す。

内容

1	オリエンテーション/労働者のストレスの現状
2	ストレスの基礎知識/産業界におけるストレス
3	メンタルヘルスの基礎知識、ストレス関連疾患
4	過重労働と健康
5	不調のリスク要因、ストレスにより現れる心身の反応
6	ストレスの軽減方法（睡眠、食事、呼吸法）
7	ソーシャル・サポート/ストレス・コーピング
8	自発的な相談の有用性
9	活用できる資源、相談機関、医療機関
10	治療について/労働者にとって身近な法律、指針
11	復習（過去の検定問題と解説）
12	復習（過去の検定問題と解説）
13	復習（過去の検定問題と解説）
14	復習（過去の検定問題と解説）
15	まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】授業で扱うテキストの該当ページをよく読んでくること。

【事後学修】その回の内容をテキストで確認すること、および過去問題を何度も解くこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース（第3版）」 中央経済社

・春日未歩子 著「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース 過去問題集（2016年度版）」 中央経済社

科目名	社会行動の心理学		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd444		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、消費場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

科目の概要

なぜ人々はブランド物を選ぶのか、どのようにすれば購買や消費を促進できるのか、どのような広告が効果的かなどが消費行動の心理学として扱われてきたテーマである。本科目では、隣接学問分野にも配慮しつつ、社会心理学的手法を用いて明らかにされてきた研究を紹介し、消費行動を科学的に理解することを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

さまざまな心理学の知識を、消費行動という場面にどのように応用可能かを考えながら、理解を深めることを目標とする。

内容	
1	消費行動の心理学とは
2	消費行動のプロセス
3	店舗内の消費行動(計画購買と非計画購買)
4	店舗内の消費行動(計画購買と非計画購買)
5	消費者の知覚(価格判断のプロセス)
6	消費者の知覚(価格判断のプロセス)
7	消費者の知覚(価格判断のプロセス)
8	ライフスタイルの違いと消費行動
9	口コミと購買意思決定
10	インターネットを通じたコミュニケーションと購買意思決定
11	マーケティングおける販売活動
12	販売の訴求テクニック・広告活動
13	販売の訴求テクニック・広告活動
14	地域性を考慮した広告の効果
15	まとめ

評価

小テストあるいはミニレポート(計50点)、期末試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】期末試験については、講義の成績評価をもって代える。授業時に求めるリアクショナルレポートについては、代表的な意見や興味深い指摘をとりあげ、授業の中で返答する。

授業外学習

- 【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。
- 【事後学修】学習内容についてノート資料を整理し復習する。小テストを行うこともある

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】指定しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。
- 【推薦書】竹村和久(編)「消費行動の社会心理学」北大路書房
杉本徹雄「マーケティングと広告の心理学」朝倉書店

科目名	キャリア発達心理学		
担当教員名	杉本 英晴		
ナンバリング	KAd445		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。発達心理学概論、青年期の心理学、社会心理学概論などを基礎とする応用科目である。職業興味や適性検査なども実施するため心理検査法とも関連する。

キャリアとは、職業人や家庭人、地域社会の一員など様々な役割を果たす過程の中で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねである。そのため、キャリアについて考える際、単純にどのような仕事の経歴があるかということだけでなく、たとえば、ある仕事に就くまでに、そして仕事についての職業活動を通して、また、家庭を築くまでに、そして仕事と家庭の両立を通して、自身や関係性をどのように発達させていくかという心理的な側面が多分に含まれている。そこでキャリア心理学は、私たちがどうやって職業を選択しどうやって職業人となっていくのか、働くことの意味は何か、ワークライフバランスを保つためにはどうすればよいのかなどの社会的な問題を考える。本講ではキャリアに関わる心理学的知見についてわかりやすく解説するとともに、自己分析や適性検査など必要に応じて実践的な内容も取り入れながら授業を進めていく。

これまで学んできた心理学の知識をキャリアという領域に応用しながら、キャリア心理学について理解を深めることを目標とする。またそれだけでなく、就職を目前に控えた受講生にとって自身の職業選択や職業生活、家庭生活のイメージを具体化する契機となることもあわせて目標とする。

内容

基本的には講義形式での授業を行うが、個人ワークやグループワークを通しての自己理解や職業理解も取り入れる。

1	キャリアとは何か
2	キャリア発達の理論
3	ライフ・キャリア・レインボー
4	進路の意思決定プロセス
5	自身のキャリアに対する関心
6	現代の就職活動
7	進路意思決定と自己効力感
8	働くことの価値観
9	計画された偶発性理論
10	職業興味
11	職業とアイデンティティ
12	ワーク・モチベーション
13	ワーク・ライフ・バランス
14	現代のキャリアにおける社会的問題
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、授業内レポート・課題20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

提出された授業レポートに、次回の授業でコメントをする。

授業外学習

【事前準備】次の授業でとりあげる用語について調べて予習をする。

【事後学修】授業内容を自分なりにA4ノート2ページ以内にまとめ直す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	性格心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe246		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科における生活科目領域の科目です (他学科開放あり)。心理学を初めて学ぶ人を対象として、人を理解する方法として「性格」を学びます。

科目の概要

一般社会の中で広く使われる日常語としての「性格」は、各種メディアが日々提供する「血液型性格診断」や「各種チャート式性格診断」を通じて多くの人々に慣れ親しんでいます。しかし、正式な学問としての「性格心理学」からは遠くかけ離れた存在です。そこで、「性格とはなにか?」からスタートし、「作られ方」「影響」「病との関係」「問題行動との関係」など、「性格」を学術的に学びます。

学修目標 (= 到達目標)

本講義では、一般で得られる「性格」と、学問である「性格心理学」との差異を理解し、最終的には日常の言動を性格心理学の観点から説明できるようになることを目指します。

内容	
1	イントロダクション (講義内容の説明)
2	性格とは何か (いわゆる“性格”というものを考える)
3	性格と人格-1- (科学的な考え方を学ぶ)
4	性格と人格-2- (古代から現代までの理論から考える)
5	性格と人格-3- (代表的な性格理論を学ぶ)
6	性格の作られ方-1- (性格形成論を学ぶ・前編)
7	性格の作られ方-2- (性格形成論を学ぶ・後編)
8	性格の影響-1- (自分と周囲の人たちとの関係を考える: 対人コミュニケーション方法)
9	性格の影響-2- (自分と周囲の人たちとの関係を考える: 人と人の相性について)
10	性格と適性 (趣味・仕事と性格の関係を学ぶ)
11	性格と健康 (病気と性格の関係を学ぶ)
12	性格の異常 (問題行動と性格の関係を学ぶ)
13	性格の理解 (みる・きく・はかる、心理検査法のはなし)
14	性格の修正 (自分で性格を変える、誰かが性格を変える。回心と心理療法のはなし)
15	総合まとめ

評価

平常点 (通常講義内に課されるレポート他) を30点、筆記試験を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、再試験をおこなう。

公欠扱いになる病気（出席停止）・忌引き・交通機関による遅延等の試験欠席事由があり試験を欠席した場合は、追試を受験できます。

授業外学習

【事前準備】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認する。

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】清水弘司 著『はじめてふれる性格心理学』1998 サイエンス社

【推薦書】講義中に適宜紹介します

【参考図書】武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井 豊 共著『性格心理学への招待[改訂版]』2003 サイエンス社

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に確実に身につけるため、習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で授業を進める。

学修目標 (= 到達目標)

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

内容

1	授業の概要を説明する。基礎学力確認テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 確認テストを実施する。テストの結果を踏まえ、コース調整を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	
14	
15	確認テストを実施する。テストの結果を踏まえ、今後の学修の進め方を検討する。

評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分自身の課題を把握して授業に臨む。

【事後学習】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】随時授業中に紹介する

【参考図書】随時授業中に紹介する

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。授業は習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で対応していく。

学修目標 (= 到達目標)

自分自身の課題を明確にし、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力という心理学の基礎となる力を向上させる。

内容	
1	授業の概要を説明する。基礎学力確認テストの結果を踏まえ、コース選択を行う。
2	第2回～第7回 コースに分かれた学修
3	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
4	<数学・基礎> 学科の学修に必要な数学の内容に特化して理解する。
5	<数学・補充> 数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
6	
7	
8	第8回 確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、コース調整を行う。
9	第9回～第14回 コースに分かれた学修
10	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、要約の力をつける。
11	<国語> 心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。
12	<数学・基礎> 学科の学修に必要な内容に特化して理解を確認する。
13	
14	
15	確認テストを実施する。 テストの結果を踏まえ、今後の学修の進め方を検討する。

評価

授業に取り組む姿勢・態度・関心50点、確認テストの結果50点とし、60点以上を合格点とする。 合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分の課題を明らかにして授業に臨む。

【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】随時授業中に紹介する

【参考図書】随時授業中に紹介する

科目名	子どもの発達と環境		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAe248		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の選択専門科目である。子どもを取り巻く環境に注目して子どもの発達を捉えることをねらいとしているため、基礎となる「発達心理学概論」を履修済であることが望ましい。

科目の概要

子どもは産まれた瞬間から、子どもを取り巻く環境と相互作用しながら発達していく。子どもの発達に重要な環境は、物理的な環境だけでなく、養育者をはじめとする身近な大人や仲間などの人的な環境、また、より包括的な社会環境や文化的背景など、幅広い。また、現代では子どもを取り巻く環境は、大きくそして急速に変化していている。本講義では、子どもの発達に重要な様々な環境についてトピック的に取り上げ、発達と環境の相互作用について考察していく。本科目は「こどもサポーター（こころの支援）」資格要件科目である。

学修目標

子どもを取り巻く環境にはどのようなものがあり、子どもの発達にどのように関与するのかについて理解を深めることを目標とする。また、現代の子どもたちを取り巻く状況に対して問題意識を持って、望ましい環境のあり方を考えることを目指す。

内容

グループワークや討論を予定している。受講人数によって内容が変更になる場合がある。

1	人間の発達の特異性：子どもの発達をとらえる
2	子どもの発達における環境との相互作用
3	親子関係の発達：アタッチメントとは
4	親子関係の発達：家族というシステム
5	現在の子育て事情
6	少子化社会の家族・地域
7	文化的背景と子育て
8	言語の発達と環境：前言語期
9	言語の発達と環境：言語の発生
10	言語の発達と環境：学校の中での言語
11	子どもの文化：遊びの中にある学び
12	子どもとメディア
13	集団と遊び体験
14	子どもの発達に資する環境とは
15	まとめ

評価

講義内での課題や小レポート（30%）、中間レポート（35%）、期末レポート（35%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

講義内での課題、中間レポートに関しては授業内で返却し講評を行う。期末レポートに関してはコメントを記載し個別に返却する。

授業外学習

【事前準備】提示されたトピックについて自分の経験を振り返ったり調べたりして考えをまとめておく

【事後学修】講義内で紹介した知見や考え方をふまえて、疑問点を調べたり、考察を深めたりすること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe349		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理専門科目における選択必修のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

人間は五感を通して外界の情報を受け取り、その情報を脳で処理することにより、何らかの反応や行動に至っている。本講義では、その情報処理のプロセス (人間の記憶や注意、思考などの認知機能) について心理学的なモデルや理論を平易に解説する。授業では映像や簡易実験などを用いて、体験的に理解を深めると同時に、科学的視点を養うことを目指す。

学修目標 (= 到達目標)

評価基準となる学習到達目標は、

- 1) 認知心理学の基礎となるモデルや理論について、日常的な行動との対応を説明できるようになること
- 2) 実証的な認知心理学研究法を理解すること

学生は自身の卒業研究におけるデザイン (研究方法、実験計画) など意識しながら学んでほしい。

内容

1	ガイダンス
2	認知の神経的基盤
3	視覚の神経的基盤
4	視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
5	視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
6	認知心理学研究法
7	注意 - 選択的注意
8	注意 - 注意と記憶
9	記憶と学習 - 記憶の構造と理論
10	記憶と学習 - 記憶のプロセス
11	知識表現 - 意味ベースの知識表現
12	知識表現 - 知覚ベースの知識表現
13	思考と言語 - 演繹的推論
14	思考と言語 - 帰納的推論
15	まとめ

評価

中間試験 (2回、計50点)、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント資料を使用する。参考図書・推薦図書と併せて、授業時に適宜図書を紹介する。

科目名	恋愛と結婚の科学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAe350		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の領域でも親密な異性関係の進展と崩壊について考える。社会心理学の基礎的知識がある程度必要であり、対人関係の心理学、コミュニケーションの心理学などとの関連がある。

社会心理学は、人と人との関係について扱う心理学の分野の1つである。青年期になると同性から異性へと親密な関係が拡大し、恋愛関係への関心も高まっていく。しかし、異性との親密な関係には同性との関係とは異なるルールやコミュニケーション方法、進展と崩壊のプロセス等が存在することが明らかになっている。先行研究で明らかとなっているこれらの結果を実証的なデータを示しながら紹介し、恋愛関係が持つ様々な機能について解説する。また近年、若者の恋愛離れに始まり、未婚や非婚率も増加している。近年の結婚に関する価値観の変化や夫婦関係で生じる問題等についても解説する。

親密な異性関係について、社会心理学の分野はどのようにアプローチし、何が明らかになっているのか、また何が問題として残されているのか、客観性に基いた説明ができるよう理解を深めてほしい。恋愛関係や夫婦関係に関する興味は尽きないが、実際にその関係内で生じる現象を心理学的に明らかにすることは非常に難しい。また、異性に対する不安や親密な関係を築くことへの面倒さから、恋愛から離れがちになっている世代を対象とした講義であり、知識が実生活での関係作りに役立つことを望む。

内容

1. ガイダンス：恋とは何か？愛とは何か？
2. 愛を測定する方法
3. 恋愛のタイプと相性
4. 恋に落ちる！
5. 恋する脳 - 男女差に着目して -
6. 告白の成功率
7. 恋する2人の独特な世界
8. 中間テスト
9. 恋愛関係が破綻する時
10. 恋愛関係崩壊と新しい関係の探索
11. 近年の結婚事情 - 結婚する？しない？
12. 結婚生活と仕事
13. 夫婦関係と子育て
14. 夫婦関係のダークサイド (DV、離婚等)
15. まとめ

評価

中間テスト (30点) 及び期末試験の成績 (70点) で総合的に判断する。ただし、2/3以上の出席がなければ、単位は

取得できない。

授業外学習

【事前準備】社会心理学の基礎的知識を、これまで受講した授業の教科書やプリントを用いて復習する

【事後学修】恋愛や結婚に関するニュースやデータ等を収集し、授業で解説された内容の理解を深める

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストを購入する必要はない。適宜プリントを配布しながら、講義を進める。ただし、参考書などについては授業を進めながら紹介していく。

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAe351		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学科の選択科目である。

心や意識、記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく、

身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって、からだ」なのである。

科目の概要

毎週1つのトピックについて、実習を交えながら講義を進める。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

身体と心、脳に関する話題を概観しながら、人間を観る眼をより柔軟にしたい。

心について深く考えるには、身体運動の基礎知識が不可欠である。

1)身体が動く仕組み(筋骨格系から脳までの機能と構造)、2)運動制御と運動学習の仕組み、3)身体運動と心理学との関わりを学び、改めて人間を見直し、心の多様さについて考える。

内容

進度に応じて新たな話題を盛り込むが、昨年度の授業内容とキーワードは以下の通り：

- 1.イントロダクション：こころだってからだです。こころを理解するために身体に注目すべき理由
- 2.身体の構造と歴史：筋肉のつき方、股関節の理解、二足歩行の進化学
- 3.ヒトの心の進化その1：直立二足歩行、言語能力、道具の製作・使用、火の使用
- 4.ヒトの心の進化その2：大きな脳、文化
- 5.骨格系の基礎と成長：胸鎖関節、体軸、骨の代謝、関節、アロメトリック/アイソトリックな成長
- 6.筋肉系の基礎と重力：無重力や加齢による筋萎縮、運動単位、伸長性/収縮性収縮、主動筋と拮抗筋
- 7.日常生活における身体のサイエンス：遅筋と速筋、カロリーの摂取と消費、METSとエクササイズ、NEAT
- 8.身体と脳のつながり方 心のクセ：感覚/運動ホムンクルス、遠心コピー、ニューロン
- 9.神経ネットワークのシミュレーション実習：ニューラルネットでおやつ代計算
- 10.動機づけと心構え：外/内発的動機づけ、原因帰属、やる気を伸ばす褒め方
- 11.運動学習：記憶の分類、文脈干渉効果、文脈干渉効果、閉鎖/開放技能
- 12.運動と発達：基本運動の発達と学習(歩く、投げる、走る)、運動能力と運動指導
- 13.利他行為と身体：身体が心を動かす
- 14.ゲスト講師に伺う女性の身体と環境
- 15.まとめ

内容の詳細は現在作成中であるので、上の講義内容はあくまで「昨年実績」に過ぎない。

純粋な講義でなく、簡単な実験や演習を折り込みながら授業を進める。各講義の後に簡単なエッセイを課すので、講義内容について積極的に考え、自分なりの考えをまとめることを求める。優れたエッセイは次回授業で紹介し、討議の材料にする。

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

ジャービス著，工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については、授業の中で随時紹介する

科目名	知覚心理学		
担当教員名	上田 祥代		
ナンバリング	KAe352		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理選択科目における選択必修の一つである。心理学の中でも、基礎的な心のはたらきについて扱う。

科目の概要

知覚とは、感覚器官を通して外界からの情報を受け取り、認識する機能である。本講義では、私たちが普段どのようにして世界を知覚しているのかについて理解を深めるため、五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）の基本的なはたらきと、その統合のされ方について概観する。各トピックごとに簡単なデモンストレーションを行い、「心の世界」が知覚によって成り立つものであり、物理的な世界とは異なるものであることについて気づきを促す。そして現象について理解を深め、自ら考えることを目指す。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）に関わる基本的な神経構造について理解する
 - 2) 人間の知覚特性や、それを測定する実証的方法について理解する
- 現象やデータから知覚のはたらきを考察できるようになってほしい

内容

1	イントロダクション
2	認知神経科学入門
3	脳とこころ（脳機能計測法）
4	視覚の基礎
5	色の知覚
6	運動の知覚
7	3次元空間の知覚
8	知覚的体制化、オブジェクトの知覚
9	顔の知覚
10	注意
11	聴覚の基礎
12	音楽の知覚
13	触覚、嗅覚、味覚の基礎、多感覚統合
14	感性情報処理
15	まとめ

評価

平常点（毎授業後に提出してもらうコメントペーパー：14点）、中間試験2回（計26点）、期末試験60点とし、総合

評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】毎回、授業内容に関連した配布プリントがあるのでそれを読んでおく

【事後学修】授業内容のまとめのプリントの課題（穴埋めや記述）を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。配布資料で行う。

【推薦書】授業内で適宜指示する

【参考図書】授業内で適宜指示する

科目名	健康心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe453		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持っています。しかし、「基礎心理学 (学習理論) 」を活用する点では他の応用心理学と変わりません。「臨床心理学」と同様の病を扱いながら違う手法を用いる点に注目してください。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム (健康管理組織) ・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれます。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴です。

学修目標：

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解する。
- 2) 上記1) を踏まえ、人の心身に隠れている素敵な部分を活かしてより良い存在へ成長させていく方法を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な難関・苦難をクリアできるようなポイントを見いだせる。

内容

講義は「健康心理学」という興味深い学問を初めて学ぶことになる皆さんに習得してもらうため、まず基礎的な考え方や理論を学んで貰います。その後、講義が深まるうちに「健康心理学」らしい非常に実践的な技法を学びます。この内容は、学びが深まるにつれて理論と技術を一体に学ぶことができるようになっていきます。そんな風に講義が一連になっていますので、可能な限り全ての回に出席して下さい。

1	はじめに	ガイダンス
2	健康心理学の意義	「健康」と、それを「心理学」する意義を考える
3	健康心理学と臨床心理学	健康心理学を支える科学的な理論・技法と、臨床心理学の差異
4	健康心理学の各論	ストレスは、向き合えて、怖い存在ではなく対応できるもの
5	健康心理学の各論	ストレスとの向き合い方、解消・緩和・乗り越える方法
6	健康心理学の各論	人格 (性格) とは何だったか
7	健康心理学の各論	人格 (性格) と健康との関係、その理解を深める
8	病気を考える	生活習慣病 (ライフスタイル)
9	病気を考える	心身症
10	病気を考える	こどもからおとなまで
11	健康を考える	予防と促進
12	健康を考える	心理教育の重要性
13	健康心理学の技法	心理アセスメント (人の健康を把握・理解する方法)
14	健康心理学の技法	心理的サポート (人の健康を支える・改善する方法)
15	まとめ	

評価

平常点(通常講義内に行われるレポート)を30点、筆記試験(期末試験)を70点、で総合評価60点以上が合格となります。満たない場合は再試験を、公欠・忌引き・交通機関の遅延運休等の場合は追試験を実施します。

授業外学習

【事前予習】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認しておく。

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小林芳郎 編著『健康のための心理学』2006 保育出版社

【推薦書】 森 和代・石川利江・茂木俊彦 編『よくわかる健康心理学』2012 ミネルヴァ書房

【参考図書】 日本健康心理学会 編『健康心理学概論』2002 実務教育出版

科目名	脳と心の科学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe454		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理専門科目における選択必修のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

脳のどの部位が損傷するとどのような機能障害が生じるのか、症例を通して「脳」と「心」の関係を学ぶ。また、脳画像技術を用いた研究例を通して、人間の認知に関わる神経的なメカニズムについて解説する。授業では映像や簡易的な実験デモなどを用いて、体験的に理解を深めると同時に、科学的視点を養うことを目指す。

学修目標 (=到達目標)

評価基準となる学習到達目標は、

- 1) 脳と心の関係を解き明かす実証的な心理学研究手法について理解する。
- 2) 先行研究によって解き明かされた脳と心の関係に関する知見を踏まえ、心理学研究と社会の関わり (研究成果が社会にどのように還元されているかなど) を考察する。

内容

1	ガイダンス
2	脳の構造
3	神経の基盤
4	遺伝と環境
5	知覚機能と脳の関係
6	知覚に関する症例を通して
7	言語と脳の関係
8	言語に関する症例を通して
9	記憶と脳の関係
10	記憶に関する症例を通して
11	情動と脳の関係
12	情動に関する症例を通して
13	コミュニケーションと脳の関係
14	コミュニケーションに関する症例
15	まとめ

評価

中間試験 (2回、計50点)、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

各授業後、授業の理解度・関心度などを把握するためコメントを提出してもらい、質問等があれば、次回授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント資料を使用する。参考図書・推薦図書と併せて、授業時に適宜図書を紹介する。

科目名	文化と心理学		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学や心理療法が文化によって異なるものであることについて学ぶ。そうすることでこれまで学習してきた心理学の知識や考え方の相対化を行う。

科目の概要

文化人類学、科学哲学、心理学史などの研究成果に加えて、教員のフィールドワークについて講義を行い、心理療法や心理学が異なる文化では異なる形をとることについて、具体的な事例をもとに学んでいく。

学修目標 (= 到達目標)

心理学や心理療法を必要として現代社会の特異性を理解し、心理学や心理療法の本性について習熟すること

内容

- 1 . イントロダクション 人類学 + 心理学
- 2 . ポストモダンの臨床心理学 なぜ心理療法には様々な学派があるのか
- 3 . 心の病とは何か 文化結合症候群と見立てという物語
- 4 . 心理学という文化
- 5 . チンパンジーは心を病むのか 象徴以前
- 6 . 神と霊が癒す - 傷ついた治療者
- 7 . 心未満 - 催眠術と千里眼
- 8 . PSYの王様フロイト 物語としての自己
- 9 . 心理療法家の作り方 心理療法はどこまで宗教なのか
- 10 . 心理療法の日本の変容 心理学しないことと気の治療
- 11 . ドラッグ・脳・SF 神経化学的自己
- 12 . 軽躁時代の癒し 自己啓発・スピリチュアリティ・野の医者
- 13 . 自己マネジメントの時代の認知行動療法 小さなSMAPの内なるマネージャー
- 14 . 心理療法とは何か 心の健康は複数である
- 15 . まとめ

評価

毎回のレポート提出 20 点と、最後の大レポート 80 点によって評価を行う。総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】文献の該当箇所を読んでくる

【事後学修】現代の心理学的事象について体験してくる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東畑開人 日本のあるふれた心理療法 誠信書房

東畑開人 野の医者笑う 心の治療とは何か 誠信書房

科目名	臨床現場の心理学		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAe456		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、これまで学んできた様々な心理学領域のなかでも、とくに臨床現場に特化した心理学を中心に扱う。主に扱う臨床現場は、医療・福祉・教育・産業の4領域である。本科目はこの4領域において、臨床現場での事例をもとにした理解と知識を深める。

科目の概要

現在、心理職者が仕事をしているのは、産業・労働、司法・法務・警察、教育、福祉、医療・保健、私設心理相談、大学・研究所、その他の領域に及んでおり、その活動領域は社会のほとんどをカバーした広範囲なものといえる。なかでも、本科目は産業、教育、福祉、医療の4領域の心理学に焦点をあて、心理職者が公表している事例研究の学びを通して、実際の心理職者の有り様を実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

事例研究は、臨床心理学の柱の一つである。事例研究を深めることは、心理的援助における多様なアプローチにふれることが可能となる。本科目においては、受講者自らが臨床現場への興味や関心そして理解を向上させるとともに、その興味関心をさらに追究できるようになることをめざす。さらに、本科目は意見交換や発表など参加型の形態をとるため、受講生には積極的な参加態度を求める。

内容

1	臨床現場における心理学とは何か
2	臨床心理ケーススタディについて、学びの場としての事例研究、心理職者のアイデンティティ
3	医療領域における心理 総合病院
4	医療領域における心理 心療内科
5	医療領域における心理 終末期医療
6	教育領域における心理 スクールカウンセラー
7	教育領域における心理 特別支援教育
8	産業領域における心理 うつ病予防と莉ワーク
9	産業領域における心理 組織コンサルテーション、キャリアとメンタルヘルス
10	司法・矯正領域における心理 少年犯罪
11	司法・矯正領域における心理 社会的養護
12	福祉領域における心理 生活保護受給者支援、家族支援
13	福祉領域における心理 高齢者施設、障害者施設、指導養護施設
14	チーム (組織) 内の心理援助職とライフサイクル、事例検討会、スーパービジョン
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物（35%）、発表内容（65%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、授業の後半に授業内容の理解が深まったかなどのリアクションペーパーを課す。

授業外学習

【事前準備】使用テキストをもとに、事前に指示した課題に取り組む。

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「振り返り」を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】村瀬嘉代子・森岡正芳（編） 実践領域に学ぶ臨床心理ケーススタディ 金剛出版 2013

【推薦書】

【参考図書】下山晴彦（編） よくわかる臨床心理学 ミネルヴァ書房 2009

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAf157		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読んでおくこと

【事後学修】授業で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直す

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	子どもの生活と保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf358		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置付けられた選択科目である。

科目の概要

本講義は、子どもの健康を守る生活や環境について、乳幼児期から児童期に分けて段階的に学ぶ。

この講義を受講することで、妊娠時から子どもの健康を守る視点を持ち、子どもの成長発達に伴う身体的特徴や病気・事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケアについて習得することができる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・乳幼児期から児童期までの発育・発達について理解できる。
- ・基本的な子育ての技術を習得できる。
- ・子どもが健康に成長できる環境について考えることができる。
- ・子どもの病気や事故について理解し、対応ができる。

内容

本講義では、実技実習があるため受講生が多数の場合は、受講人数を制限 (50名以内) します。

1	オリエンテーション、子どもの生活と保健とは
2	乳幼児期の成長発達 (身体的機能)
3	乳幼児期の成長発達 (神経学的機能)
4	乳児の成長発達と栄養 (調乳)
5	乳児の成長発達と栄養 (離乳食)
6	乳児の成長発達と生活 (抱っこ・衣服・排泄)
7	乳児の成長発達と生活 (沐浴実習)
8	乳児の成長発達と生活 (沐浴実習)
9	沐浴実習後グループワーク
10	妊娠・出産・育児を取り巻く環境
11	児童期の成長発達
12	学童期に多い病気と怪我
13	幼児学童期の事故防止
14	幼児学童期の応急処置
15	保健サービスとその活用、まとめ

評価

グループワーク等を行うので積極的に参加し意欲的に取り組むこと。講義への参加状況20%、レポート80%とし、総合

評価60点以上を合格とする。【フィードバック】提出されたレポート類はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】次週の内容について経験をふまえて考えておくこと。

【事後学修】授業で得た知識をふまえて疑問点を調べたり、考察を深めたりすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない 適宜プリントを配布する

【推薦書】大西文子編著「子どもの保健演習」中山書店

科目名	生徒指導		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング	KAf459		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科生の教職科目の1つで、必修科目である。

科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

学修目標（＝到達目標）

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性が深まり、指導の組織と計画、生徒理解の方法、進路指導等についての実践力が身につく。そのためにも、毎回、授業に出席し、しっかりと授業に積極的にかつ真剣に取り組むことが大切である。

内容

1	1.はじめに（生徒指導の意義と課題）
2	2．教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の前提となる発達観と指導観
3	3．集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導
4	4．教育課程と生徒指導
5	5．児童生徒の心理と児童生徒理解
6	6．学校における生徒指導体制
7	7．生徒指導における教職員の役割、基本的な生活習慣の確立
8	8．児童生徒の安全に関わる問題、いじめ問題への対応
9	9．問題行動の早期発見と効果的な指導、発達に関する課題と対応、不登校生徒への対応方法
10	10．問題行動の対処や命の教育の実践方法（とくにいじめ問題に対する取り組みの方法）
11	11．生徒指導に関する法制度等
12	12．地域社会における児童生徒
13	13．学校を中心とした過程・地域・関係機関等との連携
14	14．社会の形成者としての資質の涵養に向けて
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への取り組みに対する授業態度（15%）、レポート（15%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】基本的には使用テキストを活用した授業であるが、1時間以上はそのテキストを事前に読み込んでおくこと。

【事後学修】授業で扱った箇所を重点的に1時間以上は復習することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省

【推薦書】「現場で役立つ生徒指導実践プログラム」新井肇 編著 学事出版

【参考図書】教室で紹介する

科目名	教育相談		
担当教員名	伊藤 明芳		
ナンバリング	KAf460		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教師や心理臨床家は教育現場における子どもや保護者のさまざまな問題や悩みへの対応を求められる。これらの問題等に対して適切な理解と対応ができるように、相談の方法等を具体的かつ実践的に学び、相談を受けるための人間形成についても考える。

科目の概要

教育相談は、教師や心理臨床家が相談者に対して、家庭や学校における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で生きる教育相談の実践的能力の育成を図る。

学修目標 (= 到達目標)

- ・教育相談の理論、方法等の基本の習得。
- ・学んだ知識を相談実践にどのように生かすことができるのか、自ら考えられるようになること。
- ・教師・心理臨床家として、相談者の心に寄り添う教育相談の実践をおこなう心を養うこと。

内容

講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。相談を受けて人に関わる時、教師や心理臨床家には人間のかつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。

1	1. イントロダクション 教育相談とは何か
2	事例研究 [相談者の心に寄り添う]
3	2. 教育相談の基本 ロールプレイ
4	事例研究 [登校渋り・不登校]
5	教育相談の考え方 / 方法 / 構造等
6	教育相談の過程 (プロセス)
7	教育相談の終結 / 連携等
8	心理アセスメント / 相談技法
9	3. 教育相談の応用 事例研究 [保護者の価値観]
10	カウンセリング理論の活用
11	事例研究 [配慮を要する子ども]
12	子どもの理解と対応への工夫
13	4. 教育相談の展開 教師の心の健康を育む
14	他者・他機関との連携・協働等
15	まとめと今後へのアドバイス

評価

レポート課題等の平常点の評価30%、試験70%により評価をおこない、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験をおこなう。

授業外学習

【事前準備】予告した次回の講義内容について、受講生が自分なりに素手で考えて来ること。

【事後学修】学習した知識の定着をおこない、学んだことを実際の場面でどう活かすか考えること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】蓮見元子(編)『生涯発達臨床心理学 心理・保育・教育・医療からの支援』大学図書出版 2017

【推薦書】菅野純『教師のためのカウンセリングワークブック』金子書房 2001

【参考図書】講義の中で必要に応じて適宜紹介する

科目名	学校保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf161		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

学修目標として、

学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。

学校保健における基礎的事項について理解する。

学校保健における養護教諭の役割を理解する。

以上3点をあげる。

内容	
1	学校教育と学校保健について
2	学校保健の意義と関連法規について
3	学校保健の領域構造と学校保健関係者について
4	学校保健計画の法的根拠と意義、内容について
5	学校における保健教育について
6	保健指導の進め方について
7	健康相談の意義と進め方について
8	養護教諭が行う健康相談について
9	健康観察の意義と法的根拠について
10	健康観察の機会と方法について
11	健康診断の意義と法的根拠について
12	健康診断の種類と項目について
13	健康診断の計画と実施について
14	健康診断の事後措置について
15	まとめ

評価

筆記試験 (小テストを含む) 8割、レポート 1割、通常の授業への参加度 1割により評価とし、総合評価 60 点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。【フィードバック】提出されたレポート・試験はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】 次回の内容について課題を出す。1 時間程度の予習が必要である。

【事後学修】 学修内容について 1 時間程度の復習 (まとめ) が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】養護教諭のための学校保健＜第14版＞ 出井美智子他 少年写真新聞社

【推薦書】授業中に適宜示す

科目名	健康相談活動		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング	KAf462		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康問題に関して、医学的な知識をもとに発達心理学で学んだ知識・技能も活用しながら心身の問題に対して、的確なアセスメントや対応ができるための知識と技能を学ぶ。

科目の概要

「学校保健」「養護概説」で学んだ健康相談に関する答申や法律、養護教諭の職務の特質、健康相談のプロセス等を再度確認する。その上で養護教諭として子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントの視点、対応方法を演習を取り入れながら学習する。さらに、学級担任や保護者との連携方法も演習を取り入れながら具体的に学習をする。

学修目標 (= 到達目標)

健康相談の基本的なプロセスを理解し、各事例に応じて子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントができ、その対応方法を考えることができる。

内容	
1	健康相談の重要性と法的根拠
2	学校における健康相談の基本的理解
3	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解 1
4	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解 2
5	健康相談における養護教諭、学級担任、学校医等の役割
6	健康相談のプロセス 1
7	健康相談のプロセス 2
8	健康相談における基本的な技術及び留意点
9	役割演技による相談の実際 1
10	役割演技による相談の実際 2
11	役割演技による相談の実際 3
12	役割演技による相談の実際 4
13	学校における健康相談の進め方と支援体制づくり
14	事例検討会の手順と方法
15	まとめ

評価

筆記試験7割、演習に対する取り組み態度を3割として総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は再試

験を実施する。

授業外学習

【事前予習】2年次までに取得している「養護概説」の健康相談に関する内容をまとめておくこと。

【事後学修】関連科目とのつながりも含めて、授業で学んだことをまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】[養護概説] 采女智津江他 少年写真新聞社

【参考図書】「教職員のために子どもの健康相談及び保健指導の手引」 文部科学省 平成23年

科目名	免疫学		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング	KAf163		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理に関する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー・免疫学講義 (日本図書館協会推薦図書)」によって学ぶ。

科目の概要

免疫とアレルギーについて教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド (PowerPoint) で説明する。尚使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク【フォルダUドライブ】に開示して学習の参考に供する。

学修目標 (= 到達目標)

免疫とアレルギーの基礎を理解することを学修目標とする。

1. 高校で学んだ免疫とアレルギーの知識を整理する。
2. 免疫とアレルギーの歴史について理解する。
3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶ。
4. 感染症とワクチンについて理解する。
5. 免疫異常とアレルギー型別について学ぶ。

内容

1	I部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2	自然免疫システム
3	免疫を担当する器官と細胞
4	獲得免疫システム
5	サイトカイン・エフェクター細胞
6	感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7	II部：免疫異常・アレルギー。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患
8	アレルギー・アナフラキシー
9	アレルギー対策・予防・検査法
10	アレルゲン
11	花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー
12	アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
13	小児アレルギー・気管支喘息
14	食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス
15	職業アレルギー・心理免疫アレルギー。まとめ。

評価

中間筆記テスト (40点)、期末筆記テスト (40点)、授業態度 (20点) によって評価を行い、総合評価60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う

授業外学習

【事前準備】「チェックポイント」の全体把握。セルフチェック問題集A選択問題予習。学内LANパワーポイント予習。
【事後学修】「復習」の内容把握。「研究課題」解答。セルフチェック問題集B記述問題解答。学内LANパワーポイント
解読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（2007）
【推薦書】扇元敬司 訳、K.Vedhara, M. Irwin著「心理免疫学概論」川島書店（2008）
扇元敬司 著「やさしいバイオのための微生物学」講談社（2012）
扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

科目名	栄養学		
担当教員名	端田 寛子		
ナンバリング	KAf064		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修科目である。養護教諭が生徒の健康管理を行う上で必要な栄養学・食品学の基礎を学修する。

科目の概要

栄養の概念、ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類と生理機能について学ぶ。さらに成長、発育、加齢による人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について理解し、各ライフステージにおける望ましい食事のあり方を学修する。

学修目標

1. 食品とそれに含まれる栄養素の性質や機能に関する基礎知識を修得する。
2. 成長、発育、加齢に伴う心身機能の変化と栄養の基礎を理解する。
3. 健康の保持・増進における食の重要性を理解する。

内容

1	食生活の意義
2	健康と栄養の歴史
3	健康と栄養に関わる行政
4	栄養学の基礎 (1) タンパク質
5	栄養学の基礎 (2) 糖質
6	栄養学の基礎 (3) 脂質
7	栄養学の基礎 (4) ビタミン・ミネラル
8	ライフステージと食生活 (1) 乳幼児期
9	ライフステージと食生活 (2) 学齢期
10	ライフステージと食生活 (3) 青年期・壮年期・老年期
11	安全面から見た食生活
12	環境面から見た食生活
13	健康のための食生活 (1) 飢餓・欠乏症への取り組み
14	健康のための食生活 (2) 肥満・生活習慣病への取り組み
15	まとめ

評価

中間テスト (30%)、定期試験 (60%)、授業への取り組み (10%) により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回の講義で取り扱うテキストを事前に読み、理解を深めておく。

【事後学修】講義の内容について必ず振り返りを行う。日頃から食に関心を持つ。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田勉監修 堀坂宣弘・宮沢栄次編著「私たちの食と健康-食生活の諸相（第2版）」三共出版

【参考書】日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」建帛社

科目名	解剖生理学		
担当教員名	久野 節二		
ナンバリング	KAf165		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 :

ヒトの心理活動の基盤となる脳と神経に加え、その活動を維持するための人体の仕組みについて講義する。他の専門科目の内容理解に必要な人体の構造と機能に関する基礎的知識を習得できる。

科目の概要 :

人体を構成する細胞、組織、器官および器官系の構造と空間的位置関係、各構造ではたらく生理活性物質について解説し、ヒトの生命活動における各器官の役割と機能的相互関連を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標) :

- ・人体の成り立ちを分子、細胞、組織および器官のレベルで構造的および機能的に理解する。
- ・各器官に関する知識の習得により、器官が機能的に連携した各器官系の役割が理解できる。
- ・各器官系相互の構造的および機能的関連性の理解から、1 個体としての人体の成り立ちについて解剖生理学的知識が習得できる。

内容	
1	解剖生理学の基礎：分子、細胞、組織、器官、器官系
2	骨格と筋 1：骨組織、関節、骨格筋、体幹と上肢の筋
3	骨格と筋 2：下肢と頭頸部の筋、筋の種類と運動
4	神経系 1：ニューロン、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能
5	神経系 2：脳および脊髄の構造と機能、運動情報が伝わる経路
6	感覚器：感覚、感覚情報が伝わる経路
7	内分泌系：ホルモン、ホメオスタシス、内分泌腺の構造と機能
8	循環器系 1：心臓の構造と血液循環
9	循環器系 2：血液の組成と機能、リンパ液と免疫
10	消化器系 1：消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸）および膵臓の構造と機能
11	消化器系 2：消化管（小腸、大腸）および肝臓と胆嚢の構造と機能
12	呼吸器系：気道および肺の構造と機能
13	泌尿器系：腎臓および尿路の構造と機能
14	生殖器系：精巣および卵巣の構造と機能
15	まとめ

評価
 まとめの最終課題レポート (50 点)、指定回の授業内容についての課題レポート (20 点) および授業への参加度 (30 点) により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。ただし、評価を受けるには 3 分の 2 以上の出席が必要。60 点未満の場合は、新規課題レポートの提出が求められる。レポート作成では、教科書やウェブサイトにかかれた文章の単なる転記ではなく、自分の文章で記述すること。

授業外学習

【事前準備】各回の受講前に教科書の該当ページをよく読んでおく（45分程度）。

【事後学修】講義後に公開する講義内容を参考に各自まとめ、理解できていない項目を明確にし、自己学習するとともに、不明な点は講義後等の時間を活用して積極的に質問する（45分程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】坂井建雄、岡田隆夫共著・解剖生理学・医学書院、第9版、ISBN:978-4-260-01826-5

【推薦書】 佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之編訳、トートラ人体解剖生理学、丸善出版
内田さえ・佐伯由香・原田玲子編集、人体の構造と機能、第4版、医歯薬出版

【参考図書】なし

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf466		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている選択科目である。 教員免許
 取得希望者、社会福祉主事任用資格取得希望者を中心として授業を進める。

科目の概要

公衆衛生は「公の衆の生を衛る」という意味であり、集団における健康を社会や環境との関連の中で、疾病の予防と健康の保持・増進を図るためにはどうするかを考えていく学問である。

健康と疾病との関係について予防対策を軸に、関連統計情報や社会的報道等を資料として、教員や社会福祉主事になった際に応用できる身近な学問としての公衆衛生学を展開していく。

学修目標 (= 到達目標)

- ・健康とはどのような状態であるか説明できる。
- ・健康づくりのための予防医学の方策を具体的に説明できる。
- ・保健統計の数値とその意義を適切に説明できる。

内容

1	オリエンテーション 公衆衛生学序論
2	保健統計
3	保健統計
4	疫学
5	疾病予防と健康管理 (グループワーク)
6	疾病の予防
7	疾病の予防
8	健康政策と衛生行政、筆記試験
9	環境保健 (測定演習・実験)
10	環境保健 (測定演習・実験)
11	母子保健・学校保健
12	産業保健
13	高齢者保健
14	国際保健医療、筆記試験
15	まとめ

評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。授業への参加度20%、2回の筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。【フィードバック】提出されたレポート・試験はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】日頃から新聞やニュースなどの官公庁が発表する公衆衛生データを読んでおくこと。

【事後学修】授業の理解と定着のために毎授業ごとに短時間の復習が必要。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】講義内で指示する。

講義に応じたプリントをその都度配布する。

【推薦書】厚生労働統計協会「国民衛生の動向」

【参考図書】高校で使用した保健体育科の教科書

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf367		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護援助の基礎的知識を学習する。

学修目標：

1. 看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
2. 看護における観察の意味がわかる。
3. 日常生活において、人間のニーズ充足のための看護援助が理解できる。
4. 体調の不調を訴えた際の基本的な看護援助が説明できる。

内容

* 後期に「看護援助方法」の履修を予定している学生は、本科目単位を修得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

1	看護の本質と看護の対象
2	人間の尊厳と健康
3	疾病予防と看護
4	看護における観察
5	日常生活における看護 安楽と環境調整と睡眠・休息
6	日常生活における看護 栄養・食事と排泄
7	日常生活における看護 身体の清潔保持
8	看護学概論（総論）のまとめ
9	不調を訴えた人への看護 電法
10	不調を訴えた人への看護 発熱、痰・咳、呼吸困難のある人への看護
11	不調を訴えた人への看護 嘔気嘔吐、排便障害、脱水のある人への看護
12	不調を訴えた人への看護 浮腫、腫脹、褥瘡、発疹のある人への看護
13	不調を訴えた人への看護 めまい、疼痛のある人への看護
14	不調を訴えた人への看護 熱中症、アナフィラキシーの人への看護
15	看護学概論（各論）のまとめ

評価

授業の参加貢献（10点）、筆記試験（90点）により評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に、各單元ごとに教科書を読んでおいて下さい。健康に関するTV番組を見るようにして下さい。

【事後学修】各單元ごとに教科書・配布資料をまとめたノート等を作って下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】萱場一則編著 『暮らしの看護』建帛社

【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』ニューヴェルヒロカワ

坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』ニューヴェルヒロカワ

薄井坦子著 『科学的看護論』日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf368		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられ、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。また、他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を発揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションとは
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
3	障がいの概念とリハビリテーション
4	障がいの受容過程
5	ライフサイクルとQOL
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 発達障がい
10	障がいとスポーツ
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各単元について、教科書を事前に読んでおきましょう。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにしてください。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには 』 中央法規 492.9/R

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

- 1．バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
- 2．フィジカルアセスメントが適切に行える。
- 3．感染防御の基礎について説明できる。
- 4．急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
3	バイタルサイン（体温・意識）
4	バイタルサイン（測定実習）
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法）
10	感染防御（消毒薬の用途）
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	搬送と救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
3	バイタルサイン（体温・意識）
4	バイタルサイン（測定実習）
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法）
10	感染防御（消毒薬の用途）
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	搬送と救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf470		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護援助を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

学修目標：

- 1．学校感染症の特徴と看護について説明できる。
- 2．子どもの主なアレルギー疾患の特徴と看護について説明できる。
- 3．子どもの主な慢性疾患の病態と看護について説明できる。

内容

1	子どもの身体の解剖生理（筋骨格・目・耳・歯）
2	子どもの身体の解剖生理（内臓の生理機能）
3	子どもの健康状態の把握
4	学校感染症（第1種）
5	学校感染症（第2種）
6	学校感染症（第3種）
7	子どものアレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）
8	子どものアレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）
9	子どもの腎疾患（糸球体腎炎・尿路感染症）
10	子どもの腎疾患（ネフローゼ症候群・尿検査）
11	子どもの心疾患（先天性心疾患）
12	子どもの心疾患（川崎病・不整脈と心電図）
13	子どもの糖尿病と肥満
14	子どもの脳神経系の疾患
15	小児保健看護学のまとめ

評価

授業に対する意欲・関心（10%）及び、3回の筆記試験（90%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】解剖生理学を復習し、单元ごとに教科書を読んでから授業に臨んで下さい。また授業の中で指定した資料については、各自でインストールし、印刷し持参すること。

【事後学修】配布資料と教科書等をまとめたノート作りをして下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤忠明・西牧謙吾・原田正平編著 『すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル』 東京書籍
「看護援助方法」で使用した教科書も使う

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K
満留昭久 『学校の先生にも知ってほしい慢性疾患の子どもの学校生活』 慶應義塾大学出版会

【参考図書】村田光範・浅井利夫編 『小児疾患生活指導マニュアル』 南江堂
坂井建雄・橋本尚詞 『ぜんぶわかる人体解剖図』 成美堂出版

科目名	家庭の応急手当		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf371		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科専門科目。

科目の概要

日常生活の中で遭遇する傷病に対して、一市民として実践できる応急手当について学びます。

学修目標 (= 到達目標)

- ・一次救命処置が実践できる。
- ・身近で遭遇する可能性の高い傷病に対して、適切な応急手当の方法が説明できる。

内容

授業を効果的に展開するために、人数制限を設ける場合があります。

実技演習を伴う授業ですので、授業に参加する場合には、パンツスタイルが望ましい。

グループワークの形式もとり、ロールプレイも実施する。

1	応急手当の体験を語る
2	応急手当の基本・一次救命処置
3	事故・ケガの応急手当 打撲
4	事故・ケガの応急手当 筋肉・骨・関節のケガ
5	事故・ケガの応急手当 溺水、窒息、気道異物、誤飲・誤嚥
6	事故・ケガの応急手当 熱傷・化学薬品による熱傷、中毒
7	事故・ケガの応急手当 身近なケガ
8	急病時の応急手当 倒れる・意識障害・昏睡
9	急病時の応急手当 胸痛・頭痛・けいれん・めまい・麻痺しびれ、呼吸困難
10	急病時の応急手当 腹痛・嘔気嘔吐・下痢便秘、吐血下血
11	急病時の応急手当 発熱、熱中症
12	急病時の応急手当 子どもの応急手当にて焦点をあてて
13	事故予防対策
14	包帯法・搬送
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (20%)、グループワークによる取組 (40%)、レポート (40%) とし、総合評価60点以上を合

格とする。

授業外学習

【事前準備】日頃から応急手当に関連したTV番組を見ておきましょう。

【事後学修】授業で実践し学んだことを振り返り、レポートとして提出してもらいます。また、地域の消防署で実施している救急講習を受講することをお勧めします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山本保博監修『図解 応急手当ハンドブック アウトドア・レスキュー・家庭』日本文芸社

【参考図書】萱場一則『暮らしの看護』建帛社